

第5回 仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会 議事録

- 1 日時 令和6年2月6日（火）15時00分～16時30分
- 2 場所 仙台市役所本庁舎8階 第四委員会室
- 3 委員出席数 出席委員8名（垣内恵美子会長、吉田利弘副会長、青木ユカリ委員、笠原信男委員、菅野幸子委員、佐藤李青委員、柴崎由美子委員、山田淳委員）
- 4 議事録署名委員 垣内恵美子会長、吉田利弘副会長
- 5 議事要旨

1. 開会

- ・8名の委員の出席により、要綱第5条第2項に規定する定足数を満たしていることを報告。

2. 意見交換

- ・以降の進行役は垣内会長が務める。

【懇話会の運営の確認】

- ・議事録の作成について確認。事務局が作成した議事録の案について、会長と他委員1名で確認、署名をして議事録とし、仙台市のホームページ等で公開すること、および議事録に署名をする委員は持ち回りとし、今回は吉田副会長に依頼をすることとし、各委員、吉田副会長了承。

【（1）（仮称）仙台市文化芸術推進基本計画の最終案について】

- ・事務局より資料1～資料5に基づき説明。

垣内会長 本日はまず最終案全体につきまして、お気づきの点等があればご意見を頂戴できればと考えております。

色々なコメントを、非常にうまく取りまとめていただいたのではないかと考えておりますが、少し漏れているとか、この辺りについてはもう少し書いて欲しいとか、あるいはこれでいいとか、様々なご意見があるかと思っております。その辺り、ご意見を頂戴したいと思っております。

またこの後、意見交換の（2）その他というところですが、こちらの方ではこの基本計画が完成した後も含めて、進め方やその他全般的に様々なご意見を頂戴したいです。今後このようにやって欲しいとか、このように

協力するとか、そういったご意見は後の方で頂戴する予定でございますので、まずはこの最終案につきまして、何かご意見ございませんでしょうか。前回のご意見が含まれている、盛り込まれて修正された委員の先生方、特にこれでもいいのかどうかというあたりも確認したいと思いますが、いかがですか。それでは佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員 前回発言させていただいた部分について、言葉の使い方など提案したところは反映いただけたかなと思っております。

またパブリックコメントの意見も拝見して、かなり具体的に色々な意見をいただいているところも、最終案の中で検討されて、反映されているのではないかと思いました。あとはここがというところはそんなに無いのですが、1点、パブリックコメントの方でも具体的な指摘があったと思うのですが、第5章計画の推進のところの、「推進体制」と「進捗管理」について、どういう人たちが関係しているのかという図になってはいますが、具体的にどのような会議を行うのか、評価進捗の、例えば市民や文化芸術家等の視点を入れた評価というのはどういう関係性にあるのか、改めてその関係が気になるなと思いました。

それから、「次年度の取組みや次期計画策定時の検証に生かします」という言葉が入ったのは、何故これをやるのかがはっきりしたので、非常にいいかなと思っております。ただそのタイミングについて、事業を始める段階で共有していかないと、翌年度の予算を組むタイミングに合わなかったり、後々振り返るタイミングを逸してしまうこともあると思うので、実際に、推進会議というものをどういう頻度で、市民の方も交えた会議というのは、どのように行うという想定がもしあれば、お伺いしておきたいなという思いがあります。

垣内会長 はい。ありがとうございます。このところは非常にさっぱりと書いてあるので、皆さん気になるところかなと思います。ただ、基本計画なのであまり具体的に今書き込んだとしても、後で状況が変わるということも十分考えられるので、PDCAというよりは、OODA（ウーダ）ループというか、それぞれ必要な時に必要な取組みを事務局の方で行っていただくというやり方もあるのかなと拝見いたしました。この辺りもし事務局でお考えのことがあれば、共有していただければと思いますが、いかがでしょうか。

文化振興課長 まず「推進体制」にございます庁内関係各課による推進会議につきましては、組織横断的な会議というような位置づけでございまして、この計画策定でも関わっている教育局、あるいは福祉、それからまちづくり関係の課などで構成をすることを想定しておりまして、この計画に位置づける取組みについて、各事業の実施状況や、課題などを共有しながら次年度の予算要求に向

けた連携や、翌年度に向けた事業の検証、そういったところに生かしていくという会議体を想定しております、年2回ほど実施をできればと考えているところでございます。そういった中で市民や文化団体の方からいただいた、いろいろなご意見ですとか、そういったものも推進会議の中で共有をしていくというところを想定しておりました。

垣内会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

佐藤委員 はい。あとこれは次の話に入るかもしれませんが、もしかしたら市民や文化芸術家等の視点を入れた会議体というのは複数あってもいいのかなと思われました。その運営は大変になるでしょうが、この計画の議論をしてもやはりジャンル、形式が多様な活動が仙台市という視点で見ると入ってくるので、できるだけ現場の声を拾うのであれば各分野が満遍なくある会議というよりは、同じような課題を抱えている人たちの会議体の中から、議論を吸い上げてくということも大事になるかと思えます。単独でやるよりは複数のもの、かつ1回というよりは継続的にあるような会議体を、この進捗管理の体制として設置するというのはひとつのやり方としてあるかなと思われました。

垣内会長 ありがとうございます。その辺りは必要性和それから行政のコストも含めてですね、また緊急性というのもあるでしょうから、会議を立ち上げて、ご意見を聞いてという時間をかけてやる必要があるのかどうか、あるいは逆に、業界の方々のヒアリングをその場で必要に応じて柔軟な形でやるのか、そのあたりは行政のご判断にお任せするのがよろしいかとは思いますが、今のような多様な視点からの、様々なご意見のすくい上げというのはぜひ、形がどうかは別としてお願いしたいところでありまして。これに関して、あるいは他のご意見でも結構ですが、いかがでしょうか。菅野委員、お願いいたします。

菅野委員 ちょうど1年かけてディスカッションをさせていただいたのですけれども、事務局の方でも大変だったと思うのですけれども、よくここまでまとめていただいたと思っております。

前回、私と山田委員からお話しましたように、仙台の立ち位置としての国際性であるとか、今後の都市間競争であるとか、仙台もやはりグローバル経済に入ってきているところだと思いますし、再開発あるいは新しいビルの建物の建て替えなど、これから仙台全体の都市としての風景が変わっていくように思うのです。その中で今後の文化というものが、どのように根づいていくのかということを考えるタイミングとしてはとても重要な時期に、ディスカッションさせていただいたのではないかと考えています。こういった形にまとめていただいた最初の基本計画なので、ある種、パブリックコメントの方にも書いてありましたけれども、若干総花的ではあります。ただそれは仕

方がないのかなと思っております、現在のトレンドであるダイバーシティとインクルージョン、そういったことも文言を入れていただいていますし、あとはどのようにこれを実行していくかということが問われてくると思うのですけれども、それはまた後半の方にお話させていただきたいと思っております。まずは、ここまで取りまとめていただき、ここまで来れたということに対して、委員の1人として安堵しております。

また国際性ということに加えて、パブリックコメントにおいて、やはりお子さんたちのアートと触れ合う機会についてのコメントが非常に多かったような印象を持っています。これから子どもたちが成長していくときに、文化芸術というものがどのような役割を果たしていくか。あるいはそのお子さんだけではなくて、以前は高齢者とアートという形で、全国の事例を紹介させていただきましたが、あらゆる年齢層において、これからアートの要素というものが、これから生きる社会の上においては本当に重要なんだということは何度も繰り返し伝えていきたいと思っております。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。他にございませんか。それでは柴崎委員お願いいたします。

柴崎委員 前回の会議で私がお伝えした文言や考え方については、最終案に反映されていると理解しています。ありがとうございます。それから完全に反映されないまでも、このように考えているということが、事前の事務局の皆さんからのメールの対応表に書いてあったので、その点についても理解しています。

別の視点から一つだけ、パブリックコメントの際に、市民が参加していたプロセスについて、ここで発言します。

前回の会議の時に、特に文字の読み書きが難しい方たち向けに「わかりやすい版」というものを作る提案をしたところ、早急にご対応いただき、それが公開されていまして。実は、それが単に識字が難しいという人たちだけではなく、仙台市で活動するアーティストたちにも着目いただきました。本編は60ページで到底読み込めないけれども、「わかりやすい版」を通じて、今、自分たちの街でどんな議論と検討がされているかということを知ることができたということでした。その後、アーティストたちは自ら2回、仙台市市民活動サポートセンターとオンラインに集まって、さらに菅野委員、青木委員が一市民としてその勉強会に同席しながら一緒に、この計画を読み込んだという経過があったことをお伝えしたいと思います。

加えて、障害のある方たちの支援をするNPOとして私たちも、パブリックコメントにコメントを寄せたのですが、その後報告を見たときに、障害のある市民たちの意見がどのくらい出ていたかということについては大きく反

省するところでもあります。パブリックコメントの参加の仕方、あるいは意見の吸い上げ方やスピードなどにも、もう少しデザインというか、仕組みがあっても良いのかなと思いました。この基本計画に限らず、仙台市はコロナ禍にあっても予防接種に関する情報発信など、非常にわかりやすい説明や資料を準備しています。それから今、全国的に「合理的配慮」ということが義務化されるにあたって、それぞれの都道府県や政令市等が合理的配慮に関わる資料を作成していますが、いくつかの都市のものを比較しても、仙台市のものはとても優れていると思います。そういう意味で、あらゆる市民に開かれた文化芸術という視点を基本の柱にすえた計画を策定した仙台市としては、次期計画、また他の計画においても、パブリックコメントの取り方等に、こうした情報が届きづらい市民たちの声を吸い上げる方法を検討していくことができるといいなと思いました。以上です。

垣内会長

はい。ありがとうございます。大事なことかと思いますが、今後生かしていただければということでしょうか。他、ご意見ございませんか。

この計画の最終案は非常に分量も多く、やはり政令指定都市仙台市が文化振興に本気で取り組むと、このくらいのカバレッジが必要なのだと、ここは仕方がないことかと思いますが、一方でこの概要版、こちらができたことで、大分わかりやすくなったのではないかなと感じております。また本編の方もコラムという形で少し深掘りした事例なども入れていただいたのも良かったかなと思っております。私自身はこの52ページに記載の計画の推進、ここが非常に重要なポイントかと思いますが、庁内推進会議というのが明記されて、オール仙台市で取り組むという姿勢がここに明確になったという点では高く評価したいと感じております。

先生方本当にありがとうございました。こうした形で最終案ができたということで私自身も少し安堵しております。

【(2) その他】

垣内会長

本日は最終の懇話会ということでございますので、ここからは今後の仙台市の文化芸術振興施策への期待、あるいは、全5回の懇話会を通しての感想、その他、どのようなコメントあるいはエールでも構いませんが、委員の先生方から順番にお話を伺っていきたいと思います。

先ほどの最終案についてのご意見の中でも少し触れられた委員の先生方もいらっしゃるかと思いますが、大事なことは重複しても構いませんので、五十音順にということで、青木委員からお話を頂戴し、そのあと、笠原委員、菅野委員という形でいきたいと思います。それでは青木委員からお願いいたします。

青木委員 お疲れ様でございます。最終案ということで、大変読みごたえのある計画に仕上がったと感じております。とりまとめ等々ありがとうございました。パブリックコメントを拝見して、大変皆さんの関心が高く、この計画に対する今後の可能性や期待するご意見が多かったと拝見をしておりました。

この計画ができ上がり、施策事業として進んでいく中で、市民の日常的な繋がりや関わり方が大事であると思います。その積み重ねでこういった計画に繋がっていく、応援を私どもも、今、行っているものにプラスαの視点を加えながら、関わり方を続けていけたらなと思っております。

またこれだけの計画の実施にあたり、色々な情報がこれから出てくると思います。その情報をどのように届け、またアクセスできるか。届けたい時に届けたい人に、何で届けていくか、コミュニケーションをどう取っていくのかという辺りも、今後どう作っていくのが課題だなと感じました。以上です。

笠原委員 前回時点で既に中間案が出されていて、今回最終案が出ているわけですが、前回の時に非常に私自身びっくりして、この会議の最初は私自身の気持ちとすると、0（ゼロ）からという感じではあったのですが、よくよく考えてみますと、仙台市では色々な部署で、文化芸術に関係する事業、施策を長い間やってきている、そういう歴史というか、事業の経過があって、それで今回の計画を改めてトータルな形に作成したのかなと思いました。今まで私自身は仙台市の色々な事業計画を外部から拝見していたわけですがけれども、この計画案ができたことによって、よりトータルに統一的な形で、仙台市の文化事業の背景を見ることができるようになった、その成果が出てきた、それだけでも本当に素晴らしいことなんじゃないかなと思います。さらに言うと、この文化芸術の範囲はおそらく全国的な形として決まっているところがあって、一方この計画では、それに加えて「災害文化」という仙台市独自の視点があって、そこに仙台市の気概も感じている次第です。東日本大震災以前には宮城県沖地震があって、元来、非常に災害については敏感なところで東日本大震災があって、さらに色々な災害の関係する考え方、文化の蓄積があった。そういった中でこの文化芸術の中に「災害文化」を入れてきたというところは私自身としても高く評価するところです。

実はこの「災害文化」について、今被災地の方では、単に災害からの復興というよりも、例えば創造的復興とか、そういう形で言葉を使う人がいますけれども、実は先日、私、少々民俗芸能に関わっている者なのですがけれども、荒浜というところに、大正時代に途絶えた鹿踊りがあったのですがけれども、大正時代ですからかなり前、100年以上経っているんですけども、それを今度、復活させたいという話があるのですね。今月11日に小さなイベントがあ

るらしいのですが、そこでうまくいけば、荒浜は被災地域になるわけですが、そこで長らく途絶えていた、そういう活動を地域の人、それから外部の人もたくさん入っていると思うのですが、そういう人たちとともに新しい文化ですよ、そういったところを作り上げていこうという気概が、実際に生活している人の中にも芽生えている。そういうものが、今回の文化芸術の中の「災害文化」というところの中に、多分取り込まれていくのだらうと思います。ただ個人的には、被災した人に寄り添うと考えた場合に、「災害文化」というのは、寄り添っているスタンスの中では、本当にいい言葉なのだろうかとちょっと戸惑い、ただ色々調べてみますと、学術的な用語として、かなり使われているというのはわかっているのです。けれども、この後、計画期間に入って実際動いていくわけですが、この計画期間の中で、仙台市の文化芸術の基本計画の中でも非常に特徴的な施策範囲になっているわけですので、それを本当に、例えば「災害文化」ではなくて、もっと市民に寄り添った視点でいい言葉なりあるいはいい内容、そういったところをより身近に感じる視点というのが出てくるのではないかなと思うのです。この計画がスタートなのだらうなと思いますので、それが例えば5年スパンで、どんどん変わっていく。それは完成するという形ではなく、少しずつ不足があったところをプラスしていく。そういったところで、より多くの人々が満足できるような形で進んでいっていただければ、私自身は計画に大きな関わりが残念ながらできなかった、忸怩たる思いがあるのですけれども、若干ですけど少し関わらせていただいたところで、温かく見守らせていただきたいなと思っております。どうもありがとうございました。

菅野委員

やはり絵に描いた餅にならないように、実施体制と、それからそのゴールというものを心にとめて、これを推進していただきたいなという期待がございます。多分、期待と懸念と両方あると思います。そこは、市民の方にどう開いていくかというところが、やはり事業の実施というところにおいてはすごく重要になってくると思うのです。それとこの創造的な活動ということと、ちょっとあまり今回お話は出なかったと思うのですけれど、教育的な活動は実はすごく密接に絡み合っているのではないかと考えています。そういった創造的な活動に、子どもたちあるいは市民の方たちが触れることによって、どれだけのものを目にしてそれを体験して行って、血となり肉となっていく、あるいは育っていく、そういったとても重要な役割を果たしていくと思いますので、ぜひそういった形で実現していただければと思っています。

それから音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との複合施設の実現と相まって、一緒に推進されていく計画でもあると思うのですけれども、そこもしっかり考えて進めていければと思っています。

それからもう1つ、どうしたら市民の方々に情報が伝わり、こういった様々なイベントに関わっていただけるのかということを考えて、以前に仙台市の市民文化事業団の助成事業の活動発表の場に参加させていただいて、仙台市内でどれだけ素晴らしい事業が行われているかということに改めて思い至ったのですけれども、残念ながら市民の一部の方しかご存知ないという場合があります。例えば、市民の招待枠を、市が応援する事業においてはそういった枠が作れないか。そのことによって市民の方が参加できる、見ることができる仕組み、仙台市の取り組みを市民の方たちが認知できるような仕組み、そういったものも併せて考えていってはどうかと思いました。やはり市民の方、様々な年齢層の方がいらっしゃいますけれども、それぞれ興味とか、みんな違うと思うのですけれども、そういった工夫を通じて、市民の方たちに来ていただく、あるいは市民の方に可視化していくという、そういった工夫というのをより一層進めていただければと思います。以上です。

佐藤委員

今回このような機会をいただいて、仙台市にこれだけの色々な事業があることであったり、私自身この議論を通じて、色々気づくことがあったり、非常に貴重な機会をいただけたと思っております。先程、言い漏れたのですが、やはり「わかりやすい版」ができたのがすごくよかったなと思っていて、ここで議論したことがきちっと次に反映されるというやり方をさせていただいたことは感謝しております。ありがとうございます。

既に意見で出ていたことですが、これからは市民の方がこの存在を知り、どういうふうに使っていくかという段階に入っていくと思うのですが、基本計画としては市が進捗管理をしていくものにはなってくると思います。市の皆さんにもちょっとコメントというか、3点ほど申し上げたいことがあります。まず1つ目として今回この議論をしていく中で仙台市の基本計画を作るにあたっては、非常に密度が濃く、ある意味時間も短い中で、よくできたなと思いつつ、既にたくさんの活動があって、その活動を新しく作っていくというよりも、それをどう維持発展させていくのかという領域が重要なものとして見えてきたのかなと思いました。つまり、これからの新しい世代の育成という課題もあり、今活躍する人の顕彰という課題もあると思うのですが、同時に既に今動いている方々がいて、例えば、その方々がある意味でコーディネーターと名指されないのだけれど、コーディネーターで動いている、というような現状が見えてきたのだと思います。仙台にとっては既にたくさんある活動をどう続けていくのかということ、きちっと政策課題として持つべきなのではないか。逆に他の自治体ではなかなかその領域は取り組みにくいところもあるのかなということが、今回の議論で1つ思いました。

もう1点は今回文化芸術の力を社会に生かすという言葉が入った、その部

分に注力するということは大きな特色かなと思いました。そういう意味で、文化やアートが色々な領域と関わっていく「連携」や「横断」という言葉もたくさん出てきたのだと思います。社会課題という言葉も出ていましたけれど、既にある社会課題を解決する強力な手段になるというよりは、今ある課題に既に向き合っている方々もいて、その方々と一緒に連携したり、そこでこぼれ落ちるものに、文化活動があるからこそ出会えるといったところに、文化がいろんな領域と関わるという意味があるのかと思っています。そういう意味で、連携をしなければ文化も生きないし、逆にそのように文化が生きる状態があること自体、地域が非常に多様な状態であるということでもあるのだと思います。文化は多様性を作るためにも大事だけれど、地域が多様じゃなければ文化は生きないという両面があって、そういう意味でもいろんな所管があるなかで推進会議の中でも各分野の方が集まると思うのですが、できるだけ横を見ながら、ぜひ連携して進めていっていただけると、ここで議論したことの良さが一番出るのかなと思いました。

最後ですが、文化はとても社会に意義がある、多様性を保持するのだといったように、文化のいいところは、人の生き方や社会のありかたを議論できるところにあると思います。ただ、その成果や効果を議論したときに、その夢が広がってしまうことも多くて、小さな事業でもすごい大きな成果を求めてしまったりすることの不幸もたまにあります。ですので、求める成果に対して、どれくらいの資源を投入したかによって成果が変わると思うので、それはもちろんお金であったり人であったり、そういうものがどれくらい投入されたかによって成果の出方も変わるのだということを、意識して進めてほしいです。たくさんのが投入されていないけれど小さな重要な活動も大事にしていくという話もありましたが、進捗管理や成果を見ていくにあたっては、そこで起こったことと、そこに投入されたものを、ぜひセットで見ただけだと良いのかなと思いました。

あともう1つだけ、すみません。笠原委員の話聞いて思い出しました。今日みなさんにチラシをお渡しして、阪神淡路大震災から「30年目の手記」を募集していますというものです。私自身東日本大震災から10年の時に「10年目の手記」という活動で全国から手記を集めるという活動をやりました。私自身は東日本大震災の芸術文化による復興の支援事業にずっと携わってきたのですが、やはり時間の経過の中で、阪神淡路大震災を経験した方であったり、中越地震を経験した方であったり、色々な地域で経験された方と出会うようになりました。この30年目の手記はその中で出会った友人たちと「災間文化研究会」というものを作って活動しています。最近私達は災間という言葉を使っています、災害の「間」と書く言葉なのですが、災害

の後でも前でもなく、私たちは災害の間の期間に生きているという意味で、社会学者の仁平さんという方が提唱された言葉なのですが、私たちはこれを、これほど日常的に災害が次々起こってくると、災害の中に生きている状態なのではないか、と捉え直しています。そう考えると災害が起こった非常時とか、災害が無い平時という考え方ではなく、常にある意味で災害のことを考えたり、それとの向き合い方を考えていかなければいけない社会なのではないかというところを、この災間という言葉にゆだねて議論しています。ですので、仙台市の計画に東日本大震災の関わりの中で「災害文化」の言葉も入っていると思うのですが、実はその言葉をきっかけに色々な災害を経験した人たち、それは国内でもあるし世界中の人たちと繋がる1つのキーワードにもなると思うので、ぜひ何か1つの経験ではなく、この言葉を使っている色々な人たちと経験を共有していくという場も作っていったらいいなと思っています。そうすることが、今の社会のなかで文化を通じて一人一人が生きていく術を見つけていくものになっていくと思うので。ちょっと宣伝が入ってしまったのですが、以上です。

柴崎委員

まず1つ目に今回の基本計画の中に、「文化芸術による社会包摂の取組み」ということで、社会的に生きづらさを抱える人たち、また文化からちょっと遠い場所にいる市民がこうした活動に参画していくという重要な項目が入ったことがとても重要であると思います。私が障害のある方たちの当事者団体の代表としてお伝えしたいのは、今後できるホールの基本計画のそのプロセス、それは物理的なハード面でもそうですし、ソフトの部分、それから先行プログラムの部分においても、ぜひこの視点が相乗していったらいいということです。この視点に沿った作業をしっかりと求めたいし、期待したいと思っています。こうしたことはときに、できてから慌てているいろいろヒアリングされるのですが、それでは既に遅しというところもあります。計画の中に盛り込んでいくということ、そしてそのソフトや先行事業の中に、これまで文化プログラムから遠かった人たちに呼びかけて参画してもらおうというプロセスをしっかりと持っていたらいいなと思っています。

2点目です。私自身もこの1年間大変勉強させていただきました。今までNPOという在野の現場で実践に終始してきましたが、今回は懇話会の委員として、これほど行政用語を読んだことがないというくらい、1年間たくさんの資料や用語を知ることができました。改めて、自分たち一市民が、こうした計画に関わっていくことを通じて、自分たちが普段NPOの側でやっている活動をしっかりと政策に生かしていけるということを体験できたと思っています。そうした意味で、私は次の世代のリーダーやコーディネーターを育てていくということがとても重要だと改めて感じています。先ほどの菅野

委員が言っていた仙台市市民文化事業団が行っている「環境形成助成事業」には、本当に素晴らしい金の卵と言いますか、若いアーティストたちの活動がありました。音楽も舞台も現代美術も伝統芸能もあり、また対象者が子ども、障害のある方、高齢の方、外国人まで本当に多岐にわたり、まさしく社会包摂の取組みということに通じるものがたくさんありました。今、まさに現場でやっている方たちの活動や意義を、計画を作る側、推進する外郭団体の方たちがしっかり捉えて、その芽をここで生かしていくという繋がりや、連携がとても必要だと思いました。なぜこれを言うかという、報告会の場にこそいて欲しい、今のコーディネーターたちの顔がちょっと見当たらなかったのです。仙台市の方たちはいらっしゃっていました。こうした基本計画とか、ホールの計画とかに生かしていくという意味では、各団体も各課も越えて連携していく必要があるのですが、この面ではまだ課題もあり、期待もあると考えておりますので、これについて発言させていただきます。

最後に3点目です。活動する市民としての障害のある人を育てていくという視点もぜひお伝えしたいです。先日、仙台市の成人の集いの委員に、おそらく初めてだと思うのですが、知的障害の20歳の女性が自ら手あげをして参加し、壇上でもナレーションを担当し、障害のある人とない人が分け隔てなく、持っている力を生かして、表舞台で活躍するという風景を見ることができました。そうした意味で、例えば委員の中にも障害のある人たちが入っていくことを、これから私たちは意識していかなければなりません。それは福祉政策の計画だけではなく、こういう文化やホールの計画にも障害のある人たちが入っていくべきと思っています。ひとつの事例として、私たちNPOが企業等で行う研修においては、実は精神障害、発達障害を持つ人たちも自らご自身の障害を開示しながら講師をつとめています。障害のある人が社会の中のあらゆる活動に参画していくために必要ないろいろな配慮や、企業に向けたサービスの要求ということを発言しています。障害のある市民たちが徐々に育っている仙台市でもありますので、今後、この計画に則って進める様々な政策の中にも、リーダーとしての障害のある市民も育てていくという視点をもって、私たちNPOも仙台市の皆さんと一緒に仕事をしていきたいなと思った次第です。以上になります。

山田委員

まず委員の皆さん、そして事務局の皆さん、本当にお疲れ様でした。私も今回参加をさせていただいて大変勉強になりました。仙台市の持っているポテンシャルが非常に高いなということに改めて気づかされた気がします。第1回の懇話会の時にお話したのですが、仙台の魅力って何だろうと言ったときに、やはり気候風土であったり、プロスポーツが盛んであったり、一年中、市民が作り上げる祭りがあったり、或いは他の都市には無い魅力とい

うのでしょうか、そういったものがたくさんあり、そこに音楽とか、文化芸術とかを非常に皆さんが振興されているというか、盛んに行われているということもありますので、いわば仙台市って何でもあるなという感じがしています。そこに今回の基本計画が作られたということで、おそらくより一層、仙台の魅力が増し、発信力も高まっていくだろうという期待も含めて、感じているところです。

ただ基本計画自体は作成がゴールではないので、ここからどうしていくのが肝心で、佐藤委員や他の皆様からもお話いただきましたように、推進体制であったり、進捗管理であったりというのが一番重要で肝だという話をさせていただいたと思いますが、仙台市には他に多くの基本計画があると思うのです。ですので、市全体としても少し俯瞰をいただいて、そこを出来れば連携という言葉は何回も使わせていただきましたけれども、横串で、ぜひ進めていける体制というのが必要で、そうした意識が大事なのだろうなと思っています。

私自身も2021年でしたでしょうか、仙台北城跡保存活用計画等検討委員会があってその委員を務めさせていただきましたが、このゴールは2038年とちょっと長いのですが、ただ途中途中でいろんな形で、おそらくマイルストーンがあって、そこをチェックしながらやっていくと思いますが、そういった基本計画があることも含めて、仙台のシティセールスに繋がっていくための魅力がますます高まっていくということでもありますし、今まさに音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との複合施設の計画も同時に進行されているので、できれば並行して、当然そういう構想だとは思いますが、ここも連携していくことがとても理想的な展開ではないかと思っています。

それから、笠原委員、佐藤委員もおっしゃいましたけれど、この「災害文化」というところの捉え方ですが、やはり文化芸術が被災地に何ができるか、何が支援できるかということは非常に大事で、おそらく東日本大震災を経験した我々が、その学びを生かす、今般の能登半島地震でも大きな被害がございましたけれども、何かしらそういったものを文化芸術の力で復興に、これから息の長い支援になると思いますので、受動的というよりは能動的にそういったものが貢献できるような災害文化という捉え方で、おそらくここで止まることなく進化していかないといけないと思います。色々なところでアップデートできるような形で、進めていくというのが非常に大事なのではないかなと思った次第です。

1年間という短い間でしたけれども、私も一市民としてこれから仙台市の文化芸術推進基本計画に大いに期待するとともに、笠原委員が温かく見守ると言いましたが、できるだけ応援し、さらに参加することから始まると思う

ので、その第一歩を何らかの形でこれからもこの計画に支援協力をできるようにしていきたいなと思っております。本当にありがとうございました。

吉田副会長

内容的には重複するかわかりませんが、まずはこの膨大な量の計画ができたこと。他のそれぞれの専門的な立場の造詣の深い委員の皆様の意見や、私のような稚拙な意見をしっかりと受けとめていただいたこと、さらに膨大なパブコメをも受けとめて、1つの冊子として仕上げていただいたことに、まずは感謝申し上げたいと思います。せっかく皆さんの労苦でもって作られたこの基本計画でございます。やはり生きて働いてもらわなければ意味を成さないと思います。先ほど菅野委員もおっしゃいましたけれども、私も1回目で申し上げたことで、決して画餅であってはならないと。食べられる餅にしたいなという強い思いがありました。ですからその食べられる餅、そして機能する内容ということで、2点ほどちょっとお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目はこの計画の推進。先ほど垣内会長の方からありました、何といてもこの推進会議。これをものすごく大切に、重視して欲しいと思います。確かに我々、外の者は要請があれば、皆、支援をしたい。先ほど山田委員も言いましたけれど、ぜひ助けたいという気持ちでいると思いますけれど、肝心なのは、1回目の会議にも出ましたし、今日も出ておりますけれども、仙台市の文化芸術活動は色々なところでたくさんなされています。それだけでも十分ですけれども、さらに充実させるためにはということで、やはりその市長部局、さらには教育委員会、それぞれの部署でなされている、その諸活動にいわゆる風穴を開けて、お互いに先ほどから出ております連携、横串というものを通してこそ初めて充実してくるのかなと思います。ですのでこの推進会議というものを、大切にさせていただけたらと思うのが1点でございます。

2点目でございますけれども、これも1回目のときに申し上げましたけれども、市民に対する文化芸術に関するアンケート、意識調査において、市民の多くの人たち、回答した8割が非常に文化芸術というものが大切だということをおっしゃっていました。その大切な文化芸術に関わるための、いわゆる機会というものがアンケート調査の中で現れました。機会があったならば、関わりたいと。その機会というものを考えてみますと、1つはやはり時間であったり、それから場であったり、さらには情報ということですね。ですので、その情報に関しては目指す姿を横断する施策の中の4本柱の1つに位置づけておられるということは、大変意義があることかなと思っています。それで、情報発信の場所はどこなのか。今度できる、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との複合施設も考えられると思いますけれども、私の、これは要望

でございます。今度新しく市役所の庁舎ができますよね。今までの庁舎の中にも、1階にギャラリーホールというのがあり、色々なものが展示されていました。新しい庁舎では作品を展示して欲しいということではなくて、そこを何か情報発信のコーナーにして欲しい。先ほど菅野委員が言いました、市民がやっていることを市民が認知できる場というものを、新しい庁舎の1階フロアのどこかに、例えば杜の都の文化芸術の四季なんていうコーナーで、常に1年間の歩みの紹介がされている。そこに足を運べば、仙台市で行われている文化芸術活動が、一目でわかるというようなコーナーを作っていたいただければなという強い希望がございます。この2点、ぜひやっていただければなと思います。以上です。

垣内会長

ありがとうございました。最後に私からもいくつか申し上げます。まず1点、この計画、他の委員の先生方も、よくできたと、少々総花的ではあるけれども、いろいろな目配りをされた計画となったとおっしゃっていただき、大変安堵しております。私自身も、この市民の方の思いというのでしょうか、3,000人の意識調査をしまして、その思いを中心にまたヒアリング、アンケート、関係者に対する丁寧な意見聴取をして、さらにパブリックコメントも踏まえて、市民の方々の思いを中心にこの計画ができたのではないかなと感じております。これに当たりましては、積極的に様々なご意見を頂戴しました、本日まで出席の委員の先生方、そしてまた事務局、それからご協力いただきました全ての団体、アーティストの方々、関係する方々に御礼申し上げます。これで肩の荷が下りたという思いです。あわせて、ここにいらっしゃる先生方にはぜひ、それぞれのお立場でオピニオンリーダーであったり、実際実務をされている方々だったり、実践家だったり、いろいろな形で関わっていらっしゃる委員の先生方ですので、ぜひこの計画を応援してあげて欲しい。支援なり、応援なり、あるいは参加なりして、計画が実際にいい成果をもたらすような形に導いていただきたい、そのように強く感じるところであります。これはお願いです。ぜひどうぞよろしく願いいたします。

2点目ですけれども、先生方皆さんおっしゃいましたが、この計画案、この(案)が取れて計画になるわけですが、計画ですので、実施していただかないと話にならないというのは、他の委員の先生方もおっしゃる通り。ただ、外部状況が非常に大きく激変する中での計画であります。必ずこの計画をそのまま実施することができるのもちょっと思えない。山田委員がおっしゃいましたけれど進化していく必要があると。進化しながら、今後の実効性を担保する。色々なプロジェクトや取り組みが書かれていますけれども、これが成果を上げる、ただ実施するというだけで終わるのではなく、きちんとその目的を達成できる、ということが非常に重要だと思います。目的を達成する、

あるいは成果が上がったというように関係する方々そして市民の方々に感じていただく。これは定量的に何か数字を出すとかいうことだけではなくて、実際に市民の方々、それからその参加された方々が実感される、そういう成果をぜひ出していただきたいと、強く思うところであります。

3点目ですけれども、他の委員の先生方もおっしゃっていましたが、新しいこの計画の中に重点プロジェクトという形で、杜の都の新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクトが明記されました。これはかなり大きなプロジェクトであります。仙台市の文化振興の一つの機関、フラッグシップになるような施設を作っていくということですが、これに関しても、基本計画の中間案がこの間、出されたということで事務局から先生方にも情報共有されたと思います。私も今朝、早起きしまして、国際センター駅の周辺、雪の中、しかも平日ということもあって誰も歩いてなかった現地もちょっと視察しました。ロケーション、それから誘客とか、経済波及効果という観点からは、あまり有利とは言えない。控え目に言ってもこれからかなというところがある施設だろうと思いますけれども、やはり成果を上げていくためにはマネジメントが非常に重要です。これから施設がオープンするまでの間、先行事業としてソフト事業、様々な活動をおやりになると思いますけれども、この期間をうまく使って人を作っていく。この計画にもきちんと盛り込まれている人材育成ということも、このプロジェクトの成否を握っているのかなと思います。仙台フィルをレジデントという形で位置づけられたのもいいことだと思いますけれども、やはり2,000席という大きなホールで演奏するわけですから、チケットをちゃんと売り切れる、それだけの魅力を構築していただきたいなと強い期待を込めてここでコメントさせていただきました。私からは以上です。

様々なご意見を頂戴して本日まで5回という非常に短い間ではありましたが、非常に濃密な議論をさせていただいたと考えております。先生方、改めまして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

4. 閉会

- ・文化観光局長よりあいさつ、閉会。

—以上—